

会議名	第一回岸和田市スマートシティ推進協議会
実施日時	2025年3月5日(水) 10:00-12:00
場所	職員会館2階 大会議室
参加者	<p>【参画企業】 (株)インテック行政システム事業本部 (株)Y4.com (株)地域創生 Co デザイン研究所</p> <p>【部会員】 防災WG：森主任、林担当主幹（データ連携部会兼任） 健康部会：古川担当主幹、松田参事、加藤担当主幹 教育部会：山本指導主事、佐藤指導主事、田中 観光部会：藤本担当長、明山主任、妻鹿 データ連携部会：中井担当長</p> <p>【事務局】 企画課：田中課長、中井特命主幹、奥主任、上田主任 有限責任監査法人トーマツ（事業者）：松本、鳥山、森田、福永</p> <p>【傍聴者】 事業者3名、市民1名 (敬称略)</p>
使用資料	・第一回岸和田市スマートシティ推進協議会 配布資料

1 開会

- 岸和田市総合政策部企画課・田中課長からご挨拶。

みなさま、おはようございます。岸和田市総合政策部企画課課長の田中でございます。

本日は、ご多用のなか、「岸和田市スマートシティ推進協議会」第1回会議にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本来であれば、本市市長職務代理者副市長の岸が出席させていただきますところですが、本会議の開催に伴い、私が会長職務代理として出席させていただいております。よろしくお願いいたします。

本市では、昨年度末に「岸和田市スマートシティ構想」を策定し、その推進を図るために「岸和田市スマートシティ推進協議会」を設立することになりました。スマートシティとは、まさに未来を見据えた都市のあり方を考える概念であり、ICTや先端技術の活用を通じて、市民の皆様の生活の利便性や快適性を向上させ、地域全体の持続可能な発展を実現することをめざすものでございます。

たとえば、交通では、自動運転技術の進歩により、子どもから高齢者まで安全に移動でき、交通渋滞や事故が減るなど、快適な移動環境の実現などが考えられます。また、自宅にいて、様々な行政手続きや民間のサービスの情報が手に入るとともにサービスが受けられる環境が考えられます。さらに、スマートシティではデータの収集と分析も重要な要素になります。政策目的に応じて、様々なセンサーやデバイスを活用してデータを収集し、それを解析することで、より効果的な政策やサ

ービスの提供に寄与することが可能になります。このようなスマートシティを実現するためには、様々なステークホルダーの方々との連携、そしてお力が必要でございます。そういった点から、本市では、産学官が連携する「スマートシティ推進協議会」を設立することといたしました。大阪公立大学教授阿多先生には、構想策定時からご支援いただいております。また、協議会の設立準備におきましては、(株)インテック様からもご協力をいただきました。インテック様は、本協議会の設立準備に加え、今年度実証実験を実施していただきました。後ほどご報告をいただくことになっておりますが、この場をお借りして、心から感謝の意をお伝えしたいと思います。また、協議会の設立準備に加え、今年度実証実験を実施していただきました。後ほどご報告をいただくことになっておりますが、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。一方、本協議会の発足にあたり、新たに2社の企業様にご参画いただいております。(株)Y4.com様、(株)地域創生 Co デザイン研究所様、ありがとうございます。2社の皆さまのご参画により、協議会はより多様な視点や専門知識を取り入れることができ、スマートシティの推進に新たな展望を加えることができると考えております。

私たちの目標は、持続可能な地域社会の実現にあります。このように、たくさんのご支援やご協力をいただきながら、市民一人ひとりの幸福度が向上するよう、より良い未来を創り出すために皆さまと一緒に考え、行動していくことが重要です。一步一步、確実に歩みを進めていきたいと考えています。結びに、今回の第1回会議に足をお運びいただいた皆さま、どうもありがとうございます。今後も引きつづき、本協議会や本市取組にご注目いただければと思います。以上、冒頭のあいさつに代えさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

2 岸和田市がめざすスマートシティ

■ 岸和田市総合政策部企画課・田中課長からご説明。

岸和田市がめざすスマートシティということでお話させていただきます。岸和田市総合政策部企画課の田中でございます。よろしく願いいたします。資料5ページ目でございます。本市の話に入る前に、国の流れについて少しふれたいと思います。新型コロナウイルス感染症が収束した令和4年6月、国では、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会をめざし、デジタル田園都市国家構想基本方針が定められました。いわゆるデジ田でございます。基本方針では、デジタルインフラを急速に整備し、官民双方で地方におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を積極的に推進していくというものでございます。新たな社会として Society5.0 が謳われ、デジタルによって社会課題の解決へつなげていくという機運が高まりました。特にデジタルにより、リアルな空間をデジタル空間上で実現することで、実物がなくてもデジタル空間上でさまざまなシミュレーションができたり、これまでの勘や経験で実施していたことがデータで検証できるようになるなど、社会課題の解決にデジタルを活用していくことが明示されました。これは、SDGsにつながる取組でもあり、持続可能な社会の構築に寄与し、環境負荷の低減や暮らしの質の向上など、だれもが暮らしやすい社会の実現につながるものでございます。資料6ページ目でございます。そういった国の状況も踏まえ、本市におきましては、令和4年12月に、次の“新・岸和田”づくりをめざし、総合計画である「将来ビジョン・岸和田」を策定しております。安心していつまでも住み続けることができる、個性豊かで魅力的なまちをめざし、「笑顔にあふれ、誰もが“幸せ”を感じる都市」の実現を基本理念に掲げています。その将来ビジョン・岸和田におきまして、基本目標に横串を通す

「岸和田を強くする“3つの視点”」の一つに、時代を先取り、リードする先端技術の活用を定め、ICTをはじめ先端技術を様々な分野において積極的に活用し、時代を先取りするとともに、市民の生活の利便性の向上や社会変化へ柔軟に対応し、近隣地域全体をリードするまちをめざすとしております。スマートシティの取組は、これを実現する手段として、重きが置かれています。資料7ページ目でございます。そこで、国における Society5.0 の推進、及び本市総合計画である「将来ビジョン・岸和田」の実現をめざし、スマートシティ構想を令和6年3月に策定いたしました。構想の目的は、3点、一番の目的は、市民ひとりひとりの Well-being（幸福度）の達成であり、個人の幸福度の向上に資する取組、2つ目にデジタル・テクノロジーありきでなく、人中心の取組としての方向性を明確にすること、そして、3つ目に、地域や民間企業と連携して、様々なアイデアをつなげ、社会の課題解決を図るまちづくりを行うことにあります。資料8ページ目でございます。本構想では、先ほどの目的にあわせ、テーマを「住みよい・育てよい・心地よい“市民生活”」とし、市民や来訪者の利便性・幸福度を向上させ、誰もがまちに愛着を持てるような環境をめざすものです。個人に合わせた情報発信や健康の促進、多様な学びの機会の創出や安全への備え、ビジネスにおける新たな価値の創造やスムーズな移動、行政手続きの利便性向上などにより、「住みよい、育てよい、心地よい生活」の実現をめざすものです。そして、特に必要な2つの視点として、1つ目に、分野横断的つながりにより、新たなサービスを作り出すこと、組織や分野を越えて、有機的にアイデアをつなげ、課題解決を行うこと、2つ目に、スモールステップで、小さな挑戦から始め、大きく育てていくという視点、トライ & エラーの中から最適な解決策を見つけ出し、こうとするものでございます。資料9ページ目でございます。特に、本構想におきましては、「子育て・教育」、「移動・物流」、「観光振興」、「健康」、「安全・治安維持」を重点分野と定めつつ、分野を横断する視点も持ちながら、各種取組を推進していくこととしております。資料10ページ目でございます。そして、そのスマートシティの取組を推進する組織として、産学官が連携した「岸和田市スマートシティ推進協議会」の設立を行い、各種プロジェクトの検討、実証を進め、本市にあった課題解決の手段を見つけ、導入していくこととするものです。岸和田市スマートシティ推進協議会の機能には、分野間連携を進めるとともに、データを利活用し、事業提案や事業化の支援を行うこと。また、テーマ別ワーキンググループを組成し、取組を検討するとともに、参画企業間の情報共有やつながりを創出するなど考えられます。また、そういった取組も、オープンにしながら、市民をはじめ様々な関係者が参加しやすい環境にすることが求められます。資料11ページでございます。これまで構想に沿ってお話をさせて頂きましたが、昨年度の令和6年3月に岸和田市スマートシティ構想を策定したあと、本日の協議会の設立に向けての準備会を令和6年6月に発足させ、検討を進めてまいりました。先ほどもお話させていただきましたが、構想策定時から、そして準備会の検討におきましても、大阪公立大学の阿多先生にはご支援いただき進めてまいりました。また、後程、お話いただきますが、株式会社インテック様には、準備会から参画いただき、今年度防災ワーキンググループを主導いただきました。また、協議会の発足にあたり、株式会社 Y4.com 様、株式会社地域創生 Co デザイン研究所様には、これからワーキンググループを推進していただきたいと思っております。何卒よろしくお願いたします。以上簡単ではございますが、私からのご説明は以上になります。ご清聴ありがとうございました。

3 【基調講演】岸和田市のスマートシティに期待すること

- 大阪公立大学学長補佐大学院情報学研究科 教授・副研究科長阿多教授からご講演。
(一部要約)
 - スマートシティでは、デジタルを駆使しながら人々がまちづくりや文化共創活動を行っていくことを期待しています。スマートシティの取組を推進することで、市民が「制約を受けない」「制限されない」状態を目指します。
 - スマートシティを推進する動機として、最新の技術を駆使して市民の生活を豊かにするという前向きな考えだけでなく、人口減少に伴う税収減の危機感の影響も大きいと理解しています。人材不足が加速していく中で高い水準の行政サービスを維持するにはどうすれば良いのかを考えたとき、人でなくても対応できる業務を可能な限り省力化する必要があります。
 - 多様化するライフスタイルの中で、どのようにして行政サービスの多様化を担保し続けるのが課題です。行政の根幹である全体最適と、個別最適の両方を満たすことができる制度を考えていかなければなりません。
 - 行政サービスを自治体職員だけで永続的に提供し続けることは不可能であるため、スマートシティの推進には市民の積極的な参加が不可欠です。個別最適を満たすには、地域の特性に合わせたシステム構築が望ましいです。
 - 市民の声を聴く制度は以前から存在はしていたものの、どうしても一部の意見に偏ってしまいがちでした。データからログを辿ることで、手を挙げていない多数派の市民の傾向を正しく分析することが可能になります。
 - スマートシティの実証実験を行っている他自治体の多くが参加者の募集という課題に直面しています。市民に提供するサービスのプラットフォーム化ができていなければ、安定した参加者の確保は困難であり、一度集めた市民に対して新たなサービスを継続的にアプローチしていくサイクルを構築できることが望ましいです。市民にサービスを使っていただくという認識ではなく、サービスに依存してもらえるようなプラットフォームの仕組み作りが必要です。そのためには単独のソリューションではなく、多様なソリューションを統合的に扱い、参加者を増やしていくという戦略が重要です。
 - 庁内職員は繁忙度が高いため、デジタル化が進んでもトランスフォーメーションまでは手が回っていないのが実情です。トランスフォーメーションを進めていくために、まずは業務改善を行い、機械化による効率化を行う必要があります。業務効率化によって発生した空き時間に職員同士で話し合い、どのようにしてトランスフォーメーションを行っていくのか、時間をかけて方針を決めていくことが望ましいです。必ずしも人が行う必要のない業務については率先してデジタル化を進めていくべきです。
 - 新たなシステムを導入する際に行政コストがかさんでしまうことは可能な限り避けたい事象です。何重にも再委託を行うことで、自治体の意向を理解しているのは元請のみであり、実際に作業を行う下請には詳細が伝えられていないというケースも散見されます。データプラットフォーム上で様々な機能をパーツごとに連携して作る構造に変えていくことで、パーツ単位の発注が可

能になり、事業者との認識の齟齬を未然に防ぐことが可能です。

- 行政サービスは、自治体単体ではなく様々な立場の人が一丸となって作り上げていくものになりつつあります。スマートシティのフィールドの一つとして大学のキャンパスもぜひ活用ください。

4 岸和田市スマートシティ推進協議会の設立

■ 事務局から説明。

続きまして、「4. 岸和田市スマートシティ推進協議会の設立」でございます。岸和田市スマートシティ推進協議会の設立趣旨につきまして、ご説明いたします。岸和田市スマートシティ推進協議会の設立目的についてご説明いたします。1つ目の目的は、「岸和田市におけるスマートシティ構想の推進を図るため、民間企業の力を地域課題の解決につなげ、市民の生活利便性や豊かさの向上を図ることをめざし、産学官からなる岸和田市スマートシティ推進協議会を設立します。」です。2つ目の目的は、「産学官が連携してデータやICT等の新たな技術を活用しながら、分野横断的に岸和田市における諸課題の解決等に取り組むことにより、岸和田市の魅力を高め、持続可能な都市として機能するスマートシティを実現します。」となっております。次に、岸和田市スマートシティ推進協議会の機能をご説明いたします。協議会の機能として7点設定しております。「分野間連携の促進」、「データ利活用の推進」、「事業提案、事業化支援」、「テーマ別WGによる情報交換、取組検討及び共有」、「スマートシティ推進に係る人材育成、参入企業の公募を始めとする関係構築」、「会員提案による取組案及び施策案の事業化に向けた協議・実証」、「住民参画や意見反映の機会の検討」でございます。

それでは、岸和田市スマートシティ推進協議会の会員をご紹介します。防災ワーキンググループに所属する株式会社インテック 行政システム事業本部 西日本公共ソリューション部様です。健康ワーキンググループに所属する株式会社 Y4.com 様です。観光ワーキンググループに所属する株式会社地域創生 Co デザイン研究所様です。以上の3事業者に会員として参画いただきます

続きまして、「岸和田市スマートシティ推進協議会の組成について」ご説明いたします。岸和田市スマートシティ推進協議会は総会、運営委員会、テーマ別WGの3つの会議体で構成され、本市におけるスマートシティに係る事業を推進・牽引いたします。総会は、基本方針、事業計画及び協議会運営に係る重要事項を審議・承認する場でございます。開催頻度は年2回程度、構成員は会長である市長を筆頭に推進協議会に属する全メンバーが参加し、庁内検討組織の部会員にも参加いただきます。続きまして、運営委員会は、事業計画及び事業報告に関する審議、協議会の運営に係る全体調整を実施する場でございます。開催頻度は年4回程度、構成員は総合政策部長、(株)インテック、外部アドバイザー、テーマ別WGの代表者です。続きまして、テーマ別ワーキンググループは、部会員及び公募企業により組成する事業検討実施機関、主に事業を推進する場でございます。開催頻度は年6回程度、構成員は市職員及びパートナー会員の社員です。続きまして、岸和田市スマートシティ推進協議会設立にあたり規約の承認を実施させていただきます。会員の皆様におかれましては、お手元の岸和田市スマートシティ推進協議会規約(別紙)をご確認ください。規約の承認にあたりましては、会長 職務代理の岸和田市総合政策部企画課長の田中様より審議事項の確認をよろしく願いいたします。

(会長職務代理) それでは、別紙にごぞいます「岸和田市スマートシティ推進協議会規約」につきまして、本日制定させていただいてよろしいでしょうか。

「一同賛同」。ご賛同ありがとうございます。それでは、本日制定といたします。

5 令和 6 年度の活動状況、令和 7 年度の活動方針

■ 事務局から説明。

続きまして、「5. 令和 6 年度の活動状況、令和 7 年度の活動方針」でごぞいます。本日は、参画される企業の皆様から参画にあたっての意気込みや今後の展望についてお話をいただきます。各参画企業がどのような技術とアイデアを持ち寄って本市のスマートシティに貢献していくのか、皆様も是非関心を持ってお聞きいただければと思います。それでは、はじめに令和 6 年度から本協議会の前身である準備会に参画いただいております株式会社インテック様から活動報告に関するお話をいただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

■ (株) インテック様から、令和 6 年度実証実験の報告 (一部要約)

- エリアコミュニティネット様の避難所チェックイン管理システムと自社のエリアデータ利活用サービスを連携させ、実証実験を実施し、参加者にアンケートを取りました。
- システムから、避難者数、避難者の属性、避難所別の収容率等、個人情報を含まないデータをエリアデータ利活用サービスに連携を行いました。連携したデータはシステムの中で蓄積され、BI ツールで分析を行っています。仮に市内で複数の避難所が開設されるような事態に陥ったとしても、ダッシュボードを活用することで各避難所の傾向や状況を一目で判断できるのではないかと考えました。
- 他システムへの連携として、ORDEN へのデータ連携を実施しています。
- 受付の種類は手書き、QR コード、マイナンバーカードの 3 パターンとし、登録された情報のリアルタイムでの反映を確認しました。受付方法による所要時間の差は当日の参加者に報告済みです。QR コードによる受付の所要時間は個人差が大きかった点については、新たな課題として認識しています。
- 今回は防災講演を聴講に来られた防災意識の高い方が多かったため、十分な参加人数を確保できたのではないかと考えています。
- 今回は個人情報を収集する実証実験だったため、情報の扱いに注意して実証を行いました。
- 現地での案内に使用する印刷物のサイズを見誤っていたことについては反省しております。一方で、参加者の皆様に講演会終了後にフィードバックができたことは良かった点と認識しています。

続いて、株式会社 Y4.com 様ならびに株式会社地域創生 Co デザイン研究所様から令和 7 年度の新規 WG において実証をめざす提案内容に関するお話をいただきます。よろしくお願ひいたします。

■ (株) Y4.com 様から、令和 7 年度 WG の実証の方向性等についてご説明 (一部要約)

- 高齢化進行による介護給付費の増加、生活習慣病の重症化による健康リスク拡大、特定健診・保健指導の実施率の低さ、それらによる市財政への負担の増加が、本事業の目的及

び解決すべき課題と認識しています。

- Genkimiru プラットフォームはマイナンバーカードを活用することで、市民以外をサービスの対象から弾くことが可能です。また、信頼性の高い情報を簡単に入手することも可能です。個人情報・4情報の取得と第三者提供の同意を得ることで、データの正規化・アカウントのプロビジョニングが可能になります。また、アプリ側で 50 種類以上のダッシュボードを用意しており、市民のニーズに合わせたダッシュボードを提供することが可能です。なお、集まったデータは、データ連携基盤を介してサービス提供会社へ情報連携することができます。
 - 先般実施しました部会員様との調整から、ターゲットは主に子どもや親世代とし、食育プログラムの検討や生活習慣の見直しを進めていく想定です。ターゲットに合わせたダッシュボードの設定と生活習慣の可視化とソーシャルゲーミフィケーションを活用する施策を検討しています。
 - まずはスモールスタートでの実証実験を検討しており、参加者の募集には岸和田市にて所有している LINE やメルマガの活用、学校への協力依頼も視野に入れていきます。
 - 事業自体もスモールスタートとし、まずは WG メンバーとの課題共有や目線合わせを行いながら進めていきたいと考えています。協議の中で、子育て世帯に向けた食育の方針について検討していきたいところです。
 - なお、本事業ではデジタル田園都市国家構想交付金の活用を前提としています。
- (株) 地域創生 Co デザイン研究所様から、令和 7 年度 WG の実証の方向性等についてご説明（一部要約）
- 阿多教授のお話にもあった通り、小さな企業でフットワークを軽く事業を進めていきたいと考えています。地域創生 Co デザイン研究所は、課題の探索から実装までを地域に密着して行っていくために NTT 西日本から派生した会社です。
 - 提案当時はスタンプラリーによる周遊を促進し、参加者のログから岸和田市へ来訪した観光客の傾向を分析することを検討していました。しかし、議論を進める中で、データの利活用と市民の方への情報発信を重点的に行っていききたいという話があり、まずはどのようにしてデータを集めるのかを WG 内で相談しながら進めていきたいと考えています。
 - プラットフォーム構築の第一歩としてスタンプラリーを展開していきたいところです。観光以外にもスタンプラリーの仕組みを活用できるよう事業を進めてまいります。

■ 事務局から説明。

ありがとうございました。続きまして令和 7 年度における活動スケジュール「全体実施スケジュール（案）」でございます。令和 7 年度における総会、運営委員会及び庁内組織の推進委員会の実施スケジュール（案）についてご説明いたします。総会、運営委員会、庁内組織である推進委員会の 3 つの主要な会議体があり、それぞれの開催頻度や役割を整理したものがこちらのスケジュール（案）でございます。総会につきましては、まずは令和 7 年 7 月下旬に開催し、協議会設立趣旨・目的の再共有、公募案の承認、令和 7 年度実証実験内容検討状況の確認、令和 8 年度実装事業検討方向性の提示を行います。次に、令和 8 年 1 月頃に開催し、実証事業の報告や新 WG の承認を行います。その後、3 月頃に書面開催で、年次報告や令和 8 年度事業計画の承認を行います。運営

委員会につきましては、まずは令和7年4月下旬に開催し、令和6年度取組の振り返りや令和8年度事業実施に向けた方向性検討、令和7年度において新たに公募を行う推進協議会会員に関する協議などを実施します。次に、7月頃に開催し、推進協議会会員の公募案の確認や令和7年度実証実験内容検討状況の共有、令和8年度事業の検討状況の共有などを行います。その後、10月頃に開催し、第2期推進協議会会員企業募集に係る提案書の審査や参画候補となる企業の審査を行います。次に12月頃に開催いたします運営委員会では、令和7年度実証実験内容の報告や令和8年度実装事業検討状況の共有、新テーマ別WG組成に向けた調整を行います。そして、令和8年2月下旬の運営委員会では、令和7年度実証事業結果の確認や令和8年度事業計画の確認を行います。各運営委員会で議論した内容については、推進協議会にて報告いたします。推進委員会につきましては、令和7年7月頃、12月頃、そして令和8年2月頃に開催し、運営委員会での議論内容などを報告いたします。事務局では、年度初めから推進協議会参画企業の公募準備を進めて参ります。また、事務局提案による令和7年度実証事業仕様案の検討・策定や令和8年度実装事業実施に向けた課題等整理等を進めるほか、各会議体の円滑な運営を支援させていただきます。このようにスマートシティ推進協議会では、全体の計画に基づいて各会議体やワーキンググループの活動を効果的に進める体制を整えております。

次に、「令和7年度におけるWG及び部会の実施スケジュール（案）」でございます。年度を通じて「防災」、「健康」、「観光」のテーマ毎にWGを運営し、事業の実証や企画を進めていきますが、実際の活動は各WG、パートナー会員と調整のうえ進めていきます。防災WGでは、年度初めに令和6年度取組の振り返りを行い、その後、令和7年度の重点課題や実証・実装に係る仕様について検討を行います。9月以降は令和7年度における実証の取組を進める予定でございます。年度末にかけては、令和7年度取組によって明らかになった課題整理や次年度の事業計画について調整を行う予定でございます。健康WGならびに観光WGでは、4月から5月にかけてWG内での事業実施に係る課題感や方向性の目線合わせを行い、6月から9月にかけて具体的なサービスイメージを設計し仕様の策定を進めます。9月以降は年内における実証実験の実施に向けた準備を進めます。年末及び翌年1月以降は実証実験で得られた課題等を整理し、次年度に向けた改善策や新たな事業計画を策定する予定です。これらは、大きな年度の流れではございますが、実際の活動は各WGにおいて個別に調整のうえ進めていきます。また、令和7年度の実証実験の実施をめざすにあたっては、その先の実装を見据えて（意識しながら）サービスイメージを構築して参ります。デジタル田園都市国家構想交付金獲得に向けた準備や次年度に向けた事業企画・事務調整についても現時点では想定しており、スケジュールに組み込んでおります。部会については、事務局主導で推進いたします。令和6年度における取組の振り返りや各部会において活用・連携可能なデータの確認・棚卸し等を行い、第2期推進協議会会員の公募に向けた資料作成や審査会の実施等に向けて準備を進めてまいります。具体的に、「岸和田市スマートシティ推進委員会部会」における検討についてご説明いたします。岸和田市スマートシティ推進協議会の設立にあたり、ワーキングの組成に至らなかったものの今後の事業推進の基盤となる検討を継続するための部会が設置されており、令和7年度も継続して検討を実施する予定です。令和7年度も継続して検討を実施する部会は、教育部会とデータ連携・利活用部会で

す。教育部会では、令和 6 年度における取組の振り返りを行ったうえで、参画いただくターゲット企業の見直し、検討方向性の調整を経て、提案を受けるためのサービスイメージの見直しなどに取り組む予定でございます。データ連携・利活用部会では、具体的な事業化に向けた個別のサービスや分野横断的なサービスを検討するための WG 組成の可能性を探るとともに、既存の WG と連携し横串を通す形で適宜参画する予定でございます。部会における取組初期のポイントとして、継続検討する要素及び新規検討する要素に関する整理を実施すること、参画企業や参画検討企業に対するインタビューの実施等による企業のターゲティングに関して再確認すること、先行事業である防災 WG 及び WG 組成部会の取組を参考にサービスイメージの調整を実施することを考えております。

続きまして、「令和 7 年度におけるパートナー会員の募集予定について」です。令和 7 年度も引き続き岸和田市スマートシティ推進協議会ではパートナー会員を募集する予定です。先の説明にもありましたようにパートナー会員とは、本市における具体的な課題に対して事業提案を行い、事業化に向けた取組を進める企業・団体のことを指します。なお、パートナー会員の選定は、庁内検討組織である部会が検討した課題に対する事業者提案をもとに行われます。また、岸和田市スマートシティ推進協議会への新たな参画形態として「サポート会員」制度の検討を進めていきます。サポート会員とは、参画の申請を行い、登録された団体等で推進協議会を通した意見・情報交換等が主な役割となることから、参画時点では積極的に事業提案はしないものの、将来的に自社のノウハウ・ソリューション等を活用して、パートナー会員（WG の構成員）として事業関与する可能性のある企業・団体です。ただし、令和 7 年度はサポート会員の募集は行わず、パートナー企業の募集に注力する方針です。

6 閉会

■ 岸和田市総合政策部企画課・田中課長からご挨拶。

皆様、本日は、岸和田市スマートシティ推進協議会にご参加いただきまして誠にありがとうございました。岸和田市スマートシティ推進協議会を設立し、第 1 回会議を滞りなく進めることができましたのも、みなさまのご協力あってのことと考えております。感謝申し上げます。今回の会議は、産学官が連携して共にスマートシティの実現をめざすための重要なステップとなるものでございます。ご参画いただきます企業の皆様とともに、より具体的な取り組みに落とし込みながら、市民の皆様にとってより良い生活環境を提供するため、進めてまいりたいと考えております。今後も引き続きご協力をお願いいたします。また、今回、ワーキンググループとして組成に至らなかった部会につきましては、来年度、改めて参画企業の募集を行う予定でございます。スマートシティの実現に向けましては、今回ご参画頂く企業様のように、豊富なアイデアと技術を持つ企業様との連携が不可欠でございます。引き続き、本協議会及び市の取り組みにご注目いただければと思います。私たちの目標は、持続可能な地域社会の実現でございます。市民の皆様が住みやすく、安心できる環境を実現していくために、皆様の力をお借りしながら、全力で取り組んでまいります。引き続き、よろしく願いいたします。以上、簡単ではございますが、閉会のご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

以上